

地域旅客運送サービスの役割、 基本的な方針と施策・事業

1. 大島町における移動の課題

□現状

【移動サービスの現状】(庁内WG)

- 東京発着のジェット船との接続を重視したバス運行ダイヤ

【町民の意見】(事業者ヒアリング)

- バス停から医療センターや図書館等へのアクセスが、高低差や距離があり高齢者の負担
- 夕方以降のバス・タクシーがないため、外食等に支障
- 支え合い交通等のボランティア輸送の持続性に課題
- **事業を支える人員不足が問題**

【町民の移動実態】(アンケート)

- 買い物は各地区から元町・北の山に来訪
- 町内各地区から大島高校への通学需要

【町事業の状況】(ヒアリング)

- 移動を支える複数のサービスあり
- **人員不足等の事業を支えるリソースの制約**

【交通ネットワーク】(カバー状況)

- 町民の半数以上が公共交通のカバー圏域外

課題1：日常の需要に対応した使いやすい移動サービスが必要

1-1. 島外連絡交通（航空機、船舶）との接続や島内移動に対応したダイヤ調整が必要

1-2. 通院や買い物などの日常の利用ニーズにあった移動サービスが必要

1-3. **町内の移動に関する取組みの整理が必要**

1. 大島町における移動の課題

□現状

【移動サービスの現状】(庁内WG)

- 1本/時間のバス運行、夕方以降の運行なし
- 夕方以降のタクシー運行僅少
- 交通機関がキャッシュレス決済未対応

【バスの利用実態】(乗降調査)

- 元町・岡田間の移動に路線バスを活用
- 大島公園や波浮港までの移動需要あり

【事業者の意見】(事業者ヒアリング)

- レンタカーがなく、移動に困る観光客が発生(地形の起伏による移動しづらさ)
- 主要な観光地がレンタカー以外では来訪しづらい

【来訪者の意見】(中学校WS・庁内WG・来島者アンケート)

- 家族での来訪が増加傾向
- 自転車を利用した移動が増加傾向
- キャッシュレス等に未対応
- 来島者への情報提供が不足(船の予約、駐車場所、バスに関する問合せも多い)
- 路線バスの運行ダイヤや時間帯の利用しづらさ

課題2：来島者も利用しやすい交通環境整備が必要

2-1. 時期によって不足する、移動手段の確保が必要

2-2. 観光客のニーズに対応した移動サービスが必要

2-3. 来島者にとって、使いやすい移動サービスが必要

2-4. 島内の移動手段に関する来島者への情報提供が必要

1. 大島町における移動の課題

□現状

【バスの利用実態】(乗降調査)

- 元町港・岡田港間や主要観光地以外での乗降僅少

【町民の意見】(事業者ヒアリング・庁内ヒアリング)

- 公共交通を日常生活に組み込みづらい
- 自家用車があるため、時間等の融通が利く自家用車で移動
- 家族や知人への送迎の依頼しづらさ

【町民の移動実態】(アンケート)

- 自家用車移動が中心
- 自家用車で移動できず、家族等に送迎を依頼できない住民が一定数存在

課題3：自動車以外の交通手段の利用促進が必要

3-1. 免許返納者の移動手段の確保が必要

3-2. 島民のライフスタイル・移動実態にあった移動サービスが必要

3-3. 公共交通の利用促進に向けた島民の意識の醸成が必要

2. 検討部会での検討状況

- 交通事業者による検討部会を実施し、課題整理や施策・事業の検討の方向性を議論

分類	検討部会で挙げた意見
繁忙期と非繁忙期での移動実態の違い	<ul style="list-style-type: none">大島町は夏休み期間やGW等の繁忙期と非繁忙期で人の流動が全く異なる。繁忙期には観光地への移動等が増加し、移動手段が不足する状況である。一方で非繁忙期はバス・タクシーともに利用が少なく、繁忙期に合わせたサービス等を提供することができない状況である。非繁忙期にはバスでの輸送が非効率となっている場合もある。
町内の交通ネットワークの構成	<ul style="list-style-type: none">港間や観光地等への主要な移動を担う骨格の役割を路線バスが担っている。路線バスではカバーできない移動をタクシーやスクールバスの活用等の他の交通手段で対応していく必要がある。

3. 検討部会を受けた課題の追加

□非繁忙期

- 元町港・岡田港間での利用が中心
⇒前日と異なる出帆港の場合に駐車している自家用車を回収する目的での利用
- 朝時間帯は中学校・高校への通学利用
- 通院等には町・社会福祉協議会実施の送迎サービス等で移動

□繁忙期

- 元町港・岡田港間の移動に加えて、大島公園や波浮港、地層切断面等の観光名所への移動利用が増加
- 特定月に来島者が集中するため、レンタカー等が不足
- 夏休み期間中やGW等にはバスで行きづらい場所の移動のために、タクシー利用も増加し、タクシーが不足



非繁忙期・繁忙期での移動実態に対応した施策が必要

4. 施策の柱の整理

[後期基本計画におけるまちづくりの方向性]

- 元気で住みやすい快適なまちづくり、自然と人々が調和し、仲良く 共生する大島らしい環境づくり を推進
- 安全・安心で豊かに 誰もが住み心地のよい快適な環境 の整備
- 誰もが生きがいを持ち 安心して暮らせるよう健康でやさしさあふれるまちづくり を推進
- Uターン・Iターンなどができる環境整備を充実し、農業、漁業における人材を確保し、 若者が定着する活力ある産業の振興 等

課題0

非繁忙期・繁忙期での移動実態に対応した施策が必要

- 繁忙期の多客状況に対応できるサービスが必要
- 非繁忙期の非効率な輸送状況を改善する必要

課題1

公共交通利用者の移動実態に対応した移動サービスが必要

- 島外連絡交通（航空機、船舶）や島内移動に対応したダイヤ調整が必要
- 通院や買い物などの日常利用ニーズにあった運行ネットワークが必要
- 町内の移動に関する取組みの整理が必要

課題2

来島者も利用しやすい交通環境整備が必要

- 不足する移動手段への対応が必要
- 観光来訪における移動需要への対応が必要
- 移動サービスにおけるキャッシュレス決済等への対応が必要
- 島内の移動手段に関する来訪者への情報提供が必要

課題3

自動車以外の交通手段の利用促進が必要

- 免許返納者の公共交通による移動手段の確保が必要
- 島民のライフスタイル・移動実態にあった移動サービスが必要
- 公共交通の利用促進に向けた島民の意識の醸成が必要

柱1

広域ネットワークを担う交通サービスの維持・確保

- 住みやすい快適なまちづくりに資する広域ネットワークの維持・確保
- 若者がUターンしやすい環境の一環としてのネットワークの確保

柱2

町民の生活や観光需要に対応したフィーダー交通の再編

- 安心して暮らせる環境を作るためのフィーダー交通の再編
- 観光需要に対応した移動手段の確保

柱3

誰にでも分かりやすく使いやすい交通サービスの確立

- 分かりやすい情報提供
- 利用しやすい交通サービスの提供

柱4

自動車以外の交通手段も利用する新しいライフスタイルやツーリズムの推進

- 自動車にばかり頼らないライフスタイルの推進
- レンタカー以外を活用したツーリズムの推進

5. 施策実施にあたっての役割整理 (案)

分類	役割
路線バス	<ul style="list-style-type: none">元町港・岡田港や観光地、各集落のまとまった移動需要に対応するための交通手段定時・定路線・定期運行の交通手段としてサービスを提供
タクシー (乗合含む)	<ul style="list-style-type: none">路線バスで対応するには需要の少ない移動需要に対応するための交通手段(非繁忙期の日中の移動等)移動需要に合わせて、サービスの内容を調整 ⇒定時・定路線・定期運行、デマンド運行等を組合せ
スクールバスや医療送迎等の特定目的の交通手段	<ul style="list-style-type: none">路線バスやタクシーでは支障をきたすとしてい目的の移動に対応するための移動手段施策ターゲットにあったサービスを調整

6. 想定される施策アイデア

柱1 広域ネットワークを担う交通サービスの維持・確保

- ・住みやすい快適なまちづくりに資する広域ネットワークの維持・確保
- ・若者がUターンしやすい環境の一環としてのネットワーク

柱2 町民の生活や観光需要に対応したフィーダー交通の再編

- ・安心して暮らせる環境を作るためのフィーダー交通の再編
- ・観光需要に対応した移動手段の確保

柱3 誰にでも分かりやすく使いやすい交通サービスの確立

- ・分かりやすい情報提供
- ・利用しやすい交通サービスの提供

柱4 自動車以外の交通手段も利用する新しいライフスタイルやツーリズムの推進

- ・自動車にばかり頼らないライフスタイルの推進
- ・レンタカー以外を活用したツーリズムの推進

1. 移動需要に合わせた町内の交通ネットワーク再編

- ① 需要に合わせた運行ダイヤ・ルート等の再編 ★
- ② バス・タクシー・スクールバス・移動送迎サービス等の複数の交通手段の連携による需要に応じた交通ネットワークの確保 ★

2. ラストワンマイルの移動手段の確保

- ① バス停から離れた施設や地区への移動手段確保(超小型パーソナルモビリティなど)

3. 生活や観光行動に対応した新たなモビリティの検討

- ① 買い物施設を周遊する「お買い物バス」の運行
- ② 元町～サンセットパームラインを周遊する観光モビリティの導入 ★
- ③ コミュニティサイクルや電動キックボードの活用検討

4. 福祉輸送等の確保

- ① 福祉や医療分野で実施している移動サービスの維持・確保
- ② 支え合い交通の持続可能な体制の確保に向けた自家用有償運送等の検討
- ③ 公共交通等の利用を促すチケット等の配布

5. ICT等を活用した交通サービスの導入

- ① キャッシュレス対応サービスの導入
- ② 経路検索サービスでの情報提供サービスの導入

6. モビリティ・マネジメント実施

- ① 公共交通案内の充実
- ② バスの乗り方教室の実施
- ③ 住民参画の取組みの実施
- ④ ノーマイカーデーの実施 ★
- ⑤ 公共交通無料デーの実施 ★
- ⑥ エコツーリズム等の推進

※ ★は非繁忙期・繁忙期を考慮した施策検討を想定

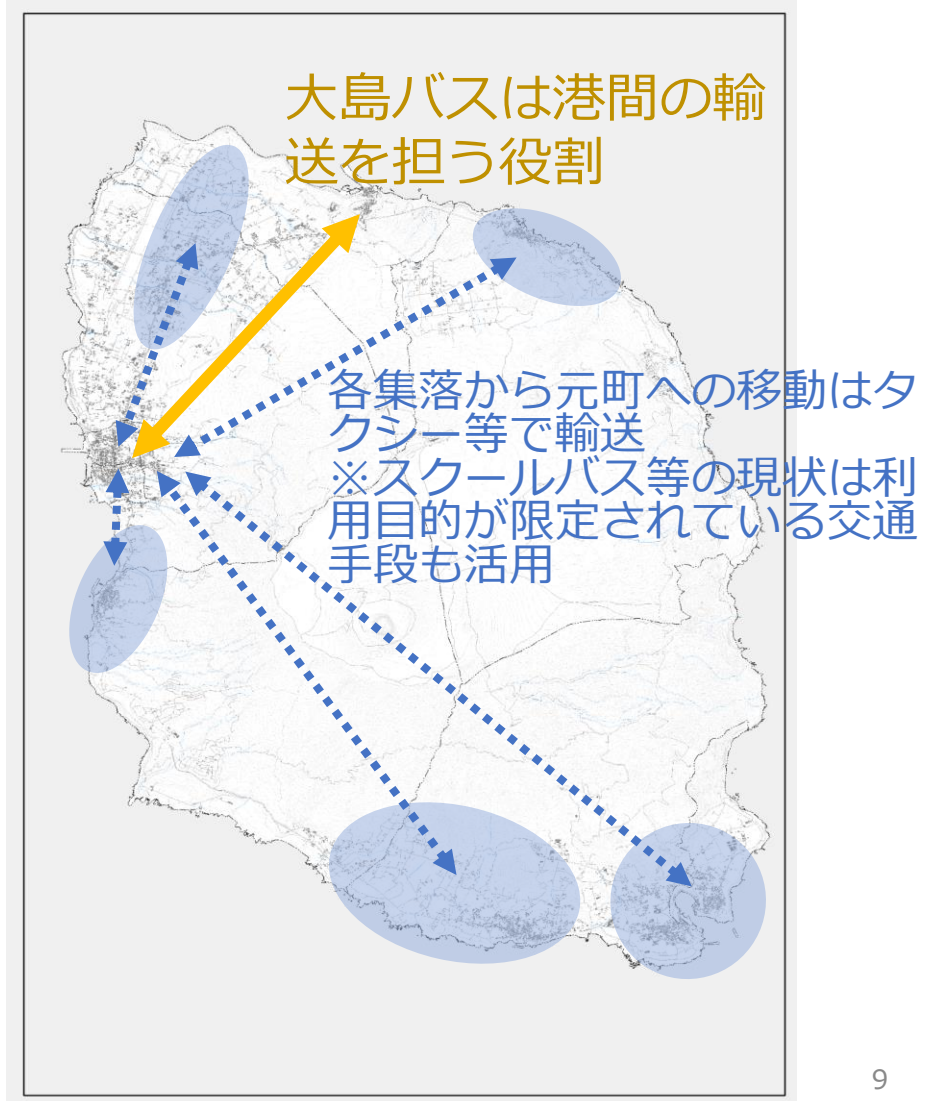
バス・タクシー・スクールバス・移動送迎サービス等の複数の交通手段の連携による需要に応じた交通ネットワークの確保のイメージ

□非繁忙期

朝・夕時間帯

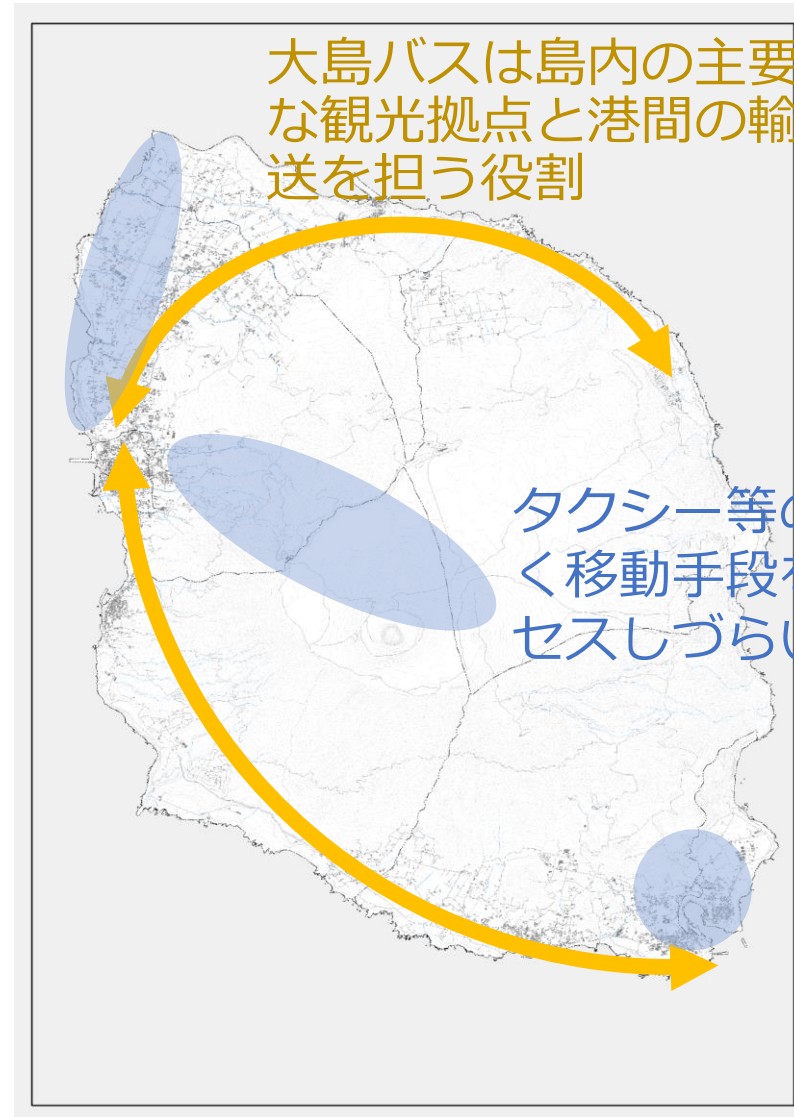


日中時間帯



バス・タクシー・スクールバス・移動送迎サービス等の複数の交通手段の連携による需要に応じた交通ネットワークの確保のイメージ

□繁忙期



バス・タクシー・スクールバス・移動送迎サービス等の複数の交通手段の連携による需要に応じた交通ネットワークの確保のイメージ

分類	検討部会や庁内意見照会で挙げた意見
今後の検討課題	<ul style="list-style-type: none">• スクールバス利活用は学校のタイムスケジュール(土曜授業の有無、台風等での登下校時間の繰り上げ/繰り下げ)の対応の検討が必要• スクールバスは事故の際の保険の適用に関して検討が必要• デマンドや乗合等でタクシーを利活用する場合には事業が成立するようなスキーム検討が必要• スクールバスの利用目的変更についての確認が必要
検討を進める上でのアイデア	<ul style="list-style-type: none">• スクールバスは現状では利用者数が少ない路線もあるため、使用車両の見直し等でリソースを有効活用

ラストワンマイルの移動手段の確保のイメージ

【施策のイメージ】

①バス停から離れた施設や地区への移動手段確保(超小型パーソナルモビリティなど)

- 農協前等から大島医療センター・町立図書館・メモリアル公園、商店を結ぶようなグリーンスローモビリティの運行
- コミュニティサイクル(乗り捨て可能なレンタサイクル)の駐輪場整備
- 予約制の乗合タクシーの実現可能性の検討

生活や観光行動に対応した新たなモビリティの検討のイメージ

【施策のイメージ】

① 買い物施設を周遊する「お買い物バス」の運行

- 元町港を起終点として、路線バスと接続するようにダイヤ設定した巡回バスの運行
- 波浮港や岡田、泉津等のスーパーマーケットのない地域での買い物ツアーバスを運行

② 元町～サンセットパームラインを周遊する観光モビリティの導入

- 元町港・ぶらっとハウス間のサンセットパームラインを經由して運行するモビリティの運行(グリーンスローモビリティ、通学バスの夏休み期間中の活用含む)

③ コミュニティサイクルや電動キックボードの活用検討

- コミュニティサイクル(乗り捨て可能なレンタサイクル)の駐輪場整備
- 電動キックボードの活用可能性

生活や観光行動に対応した新たなモビリティの検討のイメージ

分類	検討部会や庁内意見照会で挙げた意見
今後の検討課題	<ul style="list-style-type: none">• 坂道が多い地域特性にあったモビリティの検討が必要 ⇒小型のモビリティでは登板に難あり？
検討を進める上でのアイデア	<ul style="list-style-type: none">• サンセットパームライン等での通過交通の少ない道路での自動運転の試行• 夜間の観光(夕日スポット、星空スポット)を促進するようなモビリティの検討• 自転車と路線バスの連携検討(サイクルバスの検討等)

福祉輸送等の確保のイメージ

【施策のイメージ】

①福祉や医療分野で実施している移動サービスの維持・確保

- 既存事業の整理・維持

②支え合い交通の持続可能な体制の確保に向けた自家用有償運送等の検討

- 自家用有償旅客運送や福祉有償運送等の協議会立ち上げによる実施体制の確立

③公共交通等の利用を促すチケット等の配布

- 町民への公共交通利用チケットの定額配布→利用枚数に応じて町から事業者を利用額を支給

ICT等を活用した交通サービスの導入イメージ

【施策のイメージ】

① キャッシュレス対応サービスの導入

- バス・タクシーへのキャッシュレス決済端末の導入

② 経路検索サービスでの情報提供サービスの導入

- バスの経路情報(GTFS-JP)の整備

モビリティ・マネジメント実施のイメージ

【施策のイメージ】

①公共交通案内の充実

- 公共交通の利用案内を含めたガイドブックの作成

②バスの乗り方教室の実施

- 町内の学校等での公共交通の乗り方を学習する場の提供
- 遠足等での路線バスの活用

③住民参画の取組みの実施

- アンケートやワークショップ等の住民参画の取組みを通じて、公共交通への興味・関心、利用意識を向上

④ノーマイカーデーの実施

- 月1回等の頻度を決めて、クルマを利用せずに移動する日を設定
- 通勤でノーマイカーを推進

⑤公共交通無料デーの実施

- 主に路線バスの利用を1日無料として、町内の移動を促進：路線バスで移動するメリットが発生するようなイベントをセットで実施

⑥エコツーリズム等の推進

- 観光客向けに公共交通を利用した観光ルートの案内
- クルマ以外での移動を中心としたツアーの企画

モビリティ・マネジメント実施のイメージ

分類	検討部会や庁内意見照会で挙げた意見
今後の検討課題	<ul style="list-style-type: none">ノーマイカーデー等の施策実施の必要性や実施理由を理解が得られるように説明する必要
検討を進める上でのアイデア	<ul style="list-style-type: none">町のHPの交通カテゴリの見直しによる情報発信イベントとセットで路線バスの乗り方教室を実施